

東伊豆町は、静岡県伊豆半島東海岸の中央に位置し、天城の山並みを背に伊豆大島をはじめとした伊豆七島を望み、豊かな自然に恵まれた人口12,075人(令和元年12月31日現在)高齢化率45.7%の小さな温泉まちで海沿いにある6つの温泉郷(大川温泉・北川温泉・熱川温泉・片瀬温泉・白田温泉・稲取温泉)がある。東伊豆町予算(令和元年)の歳入では自主財源(51.1%)の町税が37.1%、依存財源(48.9%)の地方交付税が19.6%を占めている。観光産業の落ち込みと高齢化が影響するのか、町税の中で町民税が27%と低く、固定資産税が60%と大きく町民税の2倍を占めている。



[つけもの石deカーリング・ワールドカップ2020](#)

「つけもの石deカーリング・ワールドカップ2020」(同実行委員会主催)のプレ大会が令和2年1月19日、本大会が2月1日に東伊豆町の熱川小学校体育館(町立)で開かれた。大会は太田長八町長の始球式で開始した。

プレ大会は町内外から11チームの33名、本大会では18チームの54名が出場し、4レーンで熱戦を繰り広げた。大会には同町、下田市、伊東市、河津町の小学校から高齢者(5~84歳)までが出場。親子、祖母の三世代チームもあった。初めて競技する人が多く、狙いがそれで左右に曲がったり、相手の石をはじき出したりして、大きな歓声を上げていた。

「つけもの石deカーリング®」の誕生

2018年2月平昌オリンピックのカーリング競技女子で日本チームが銅メダルを獲得したことで“カーリング”が話題になった。また、「ねりんピック」の種目にある“カロリング”が静岡県すこやか長寿祭スポーツ大会の種目に昨年加えられた。

カロリングは氷上で行うカーリングを体育館等のフロアで手軽に楽しめるように考えられ、平成5年に日本で誕生したニュースポーツ。用具の名前、得点方法はそれぞれ異なるが、2チームでプレイヤーがストーンをコート先端にある円形のゾーンに向け、相手チームのプレイヤーと交互に投球し、得点を競う点は共通している。



[「つけもの石deカーリング」のストーン](#)



[ふるさと納税で制作したストーン](#)

漬物石のカーリングを考案した同実行委員会の北川雅子委員長は「7年前に町の介護予防事業でカロリングを提案したが、1セット20万円と高額だったので『そんなお金どこにある?』と町から言われた。身近にあるもので、できるものを探していたら、漬物石に気付いて、取っ手とキャスターを取り付けたストーンを父に作ってもらいました。本年度、(若手議員が提案した)町の提案型まちづくり補助金事業(ふるさと納税)に採択されたので、壊れやすい百均の鍋蓋取っ手から近所の内山鉄工さんに作ってもらった丈夫な取っ手が取り付けられたストーンを用意しました」と話した。

ふるさと納税を納めていただいた方々に感謝！



[実行委員会スタッフのユニホーム](#)

「つけもの石 de カーリング (TDC) は5年前、町の介護予防事業として始まったニュースポーツで、『暖かい東伊豆で氷がなくてもカーリングを楽しみたい』という思いから考案しました。介護予防から始まったので未経験でも、年齢や体格に左右されないように用具と遊び方を決めました。町の介護予防事業だと65歳以上の人だけが対象となるので、子供から高齢者まで楽しめるよう実行委員会を立ち上げました。そして、2018年に『つけもの石 de カーリング』の商標を取得しました」と話した。
同実行委員会のスタッフは20名で、今回のイベントでユニホームを着用して活動していた。



[取材される北川雅子委員長](#)



[取材される太田富雄さん\(ストーンの製作者\)](#)

この大会では、4社のテレビ局、3社の新聞社そして2社のケーブルテレビが取材していた。

三世代で楽しめるように！

「3種類のストーンがあるのは？」

「最初は大と中だけでしたが、最近、家族で一緒に遊ぶことが少ないので、お婆さん、お母さん、そして、お子さんと三世代で楽しめるように大きさを変えました」と北川さんが答えた。

ストーンはホームセンターで市販されている漬物石で、重さは、大が5.5 Kg、中が3.5 Kg、小が1.5 Kg。1チームでこのセットを使う。先攻が赤色のセット、後攻が青色のセット。

カローリングではストーンをジェットローラと呼び、同じ重さ(2 Kg)に統一されており、色は赤・黒・黄・緑・青・橙の6色。



[大きさが 大、中、小のストーン](#)

「ストーンを作る上で一番苦労した点は何ですか？」

テレビ局から取材された太田富雄さんは「今回、娘から小さいのを頼まれたが、これは小さい割に高さがあるので倒れやすい。キャスターをどこに付けるのがいいのか、いろいろ位置を変えて苦労したよ」と答えた。更に「最初、漬物石の取っ手は百均で買ったアルミの鍋蓋を使ってたが、石が重いもんですぐ壊れちゃって！今回、近所の鉄工所に特注して作ってもらった。この時も、鉄工所の協力があって、いろいろ取っ手の形を変えて試作したことかな？」と答えた。

この大会では、24個のストーンが使われた。

「つけもの石deカーリングとは？」

この競技は3人でチームを組み、戦略を練りながら7メートル先の円内(直径1.8m)に漬物石を入れたり、相手の石をはじき出したりして得点を競う。介護予防から始まっただけに、年齢や体格に左右されない子供から高齢者まで楽しめるのが大きな特徴。



[指示棒で中心ヘリードするチームメイト](#)



[競技者の立会いで得点を計算するスタッフ](#)

ゲームは2チームで4セットする。1セット目の先攻はじゃんけんで決め、2セット目以降は先攻・後攻を入れ替えて行う。ゲーム中は先攻(赤)と後攻(青)が交互にストーンをスタートラインから投げる。大・中・小のストーンを投げる順は自由。

カーリングは、中心から赤(3点)、黄(2点)、青(1点)の3色カラーで印刷されたポイントゾーン(直径0.9m)が使われているが、ここでは手作りの透明なビニール上に描かれた的なので分かりづらい。そこで、試合中、指示棒を使ってチームメイトに指示するという創意工夫がみられる。この指示棒も百均の園芸関係で売っているもの。

シンプルな得点の計算方法

カーリングに比べると、得点の計算方法はシンプルで分かりやすい。ストーンの持ち点は、大が10点、中が20点、小が30点となっている。的は3重の円からなっており、中心の円にストーンが接していれば持ち点の3倍が得点になる。同様に2番目の円が2倍、3番目の円が1倍となる。1セット毎に得点を計算し、4セットの合計得点が多い方を勝ちとする。

例えば、小が中心円、中が2番目の円、大が3番目の円に接していれば、 30×3 で90点、 20×2 で40点、 10×1 で10点となり、得点の合計点は140点となる。

初めて競技した出場者の感想



[初体験した漬物石カーリングの感想インタビュー](#)

初めて競技した出場者から感想を聞くと「楽しかった」「面白くて夢中になった」「難しかった」という声が多かった。

「難しかった」という点に「まっすぐ進まない」「力の入れ加減」「思うように進んでくれない」があった。ストーンの下には三角形の位置にキャスターが取り付けられている。そこで、ストーンを押し出す時、三角形とキャスターの方向によって動きが変わる。競技中に、このコツを早く学んだ人が勝ったと思われる。

「年中、腰が痛い、若い人と一緒にやると楽しいね！面白くて夢中になって、腰が痛いのを忘れたわ」と85歳のお婆さん(最初の写真に写っている方)が答えた。このチームは決勝戦で4位になった。途中から急にカーブしたり、Uターンしたりと予想がつかない動きが逆に「楽しかった」へ繋がったかもしれない。

「第1回 つけもの石deカーリング・ワールドカップ2020大会」の競技結果



[つけもの石deカーリング・ワールドカップ2020の参加者とスタッフ](#)

予選は3チームの6ブロックのリーグ戦で行い、上位1チームと上位2の中で得点の多い2チームが決勝に進出した。決勝は8チームのトーナメント方式で行った。

優勝はスポーツ推進員の男性「のんだくれ」チーム、準優勝は、隣の河津町から参加した「親子三代」チーム、三位は、お父さんと若夫婦「KYY」チーム。どのチームも漬物石カーリングは初めて体験したそうだ。



[どんどん上手になった小学生](#)



[準優勝した親子三代チーム](#)

準優勝した親子三代チームにインタビューすると「この前のプレ大会ではゼロ点で・・・今日はこの子が活躍で勝てました」と嬉しそうにお母さんが話した。
フォームがとてもいいので、将来、冬季オリンピックのカーリングに出て活躍するかも。

<取材後記>

隣の伊東市は、「たくさんの若者を誘客したい！」という地元の高校生の思いから始まった“まくら投げ”のスポーツイベントがある。まくら投げは修学旅行などで誰もが一度は体験したことがあり、楽しい遊びに独自ルールを考案してスポーツに進化したもの。また、伊東温泉街の中心を流れる松川で直径約1m、深さ30cmの大きなタライに乗って、しゃもじのような櫂(かい)でこいで川を下るユーモラスな“松川タライ乗り競争”がある。松川の水辺で大きなタライで洗濯している人がいたので「タライに人を乗せて松川を下ったらおもしろいのではないか？」ということで開催したとか。

北川雅子実行委員長が「勝っても負けてもみんな笑顔で楽しんでいる。子どもだけでなく大人も夢中になってくれたのがうれしい」と話したように伊豆の温泉街の人達は競技というより“まくら”、“タライ”や“漬物石”という日常品を使って観光客と一緒に楽しむのが好きなようだ。

いつか、東伊豆町に来れば、旅館のフロアにある漬物石でカーリングが楽しめるかも。

取材：生きがい特派員 東・南・西伊豆地区担当 白神時雄

[問合せ「つけもの石deカーリング」のホームページ](#)